

整理番号	35-1	事務事業名	下水処理センター維持管理事業	作成部署	水道部 下水処理センター	電話	372-3752
事務区分	■自治事務 □法定受託事務	部長職名	赤沼正三	課長職名	三津谷能彦	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	S47	根拠法令等	下水道法・水質汚濁防止法				
〃 終了予定年度							
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	近代的都市機能としての、下水道整備を行うとともに、千歳川水系の水質保全を考慮して昭和45年北広島団地の造成と同時に公共下水道に着手し、昭和47年より下水処理センターを稼動した。						

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	高い都市機能をもち活力にあふれるまち	(第5章)
	節	下水道とし尿処理	(第6節)
	施策	維持管理の充実	(第2施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	市内各地区の下水処理	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	市内各地区からの発生する全ての下水処理を行い、河川の汚濁を防止し、水資源の保全、環境衛生の向上を図る。さらに、下水処理で発生する汚泥を、脱水並びに乾燥させ、肥料とし、全量を緑農地に還元し、汚泥の有効利用に努めている。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	<ul style="list-style-type: none"> ・処理センターの運転に関する業務(昭和60年から維持管理業務の一部を民間に委託) ・保守、点検に関する業務 ・監督官庁等への報告書作成 ・水質管理 ・乾燥おでい肥料製造(昭和54年から開始)
		17年度	上記と同じ

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	165,074	174,049	176,750	180,000
①合計	165,074	174,049	176,750	180,000	
人件費(概算)	②人数(年間)	6.00	4.00	4.00	3.00
	③1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	④=②×③	54,000	36,000	36,000	27,000
総事業費①+④	219,074	210,049	212,750	207,000	

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	汚水処理量(m ³ /年)	6,862,389	6,770,922	6,930,000	6,999,000
	乾燥汚泥肥料生産量(t/年)	629	687	693	696
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	【代替指標】 汚水処理量(m ³ /年)	6,862,389	6,770,922	6,930,000	6,999,000
	乾燥汚泥肥料生産量(t/年)	629	687	693	696
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	1事業当たり評価コスト (総事業費÷評価汚水処理量)	32円	31円	31円	30円

整理番号 35-1

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等
 厳しい財政状況の中、下水道の維持管理業務の一層の効率化に資するため、民間に委託できるものは民間に委託すべきであり、今後もこの傾向は進む。他の地方自治体でも委託業務内容を検討中である。

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 改善の余地あり(⇒改善の方法記入)	公共下水道事業として、市が実施すべき事業である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 改善の余地あり(⇒改善の方法記入)	河川の汚濁防止・水資源の保全・環境衛生の向上などのためには、公共下水道は必要不可欠である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 改善の余地あり(⇒改善の方法記入)	現在の処理方法・汚泥の有効活用など、手段は適切である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 改善の余地あり(⇒改善の方法記入) <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない	下水道使用料で対応している。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	<input checked="" type="checkbox"/> 十分成果が上がっている <input type="checkbox"/> 概ね成果が上がっている <input type="checkbox"/> あまり成果が上がっていない <input type="checkbox"/> 成果が上がっていない	河川の汚濁防止・水資源の保全・環境衛生の向上など、成果は上がっている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	<input type="checkbox"/> 十分効率的 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効率的 <input type="checkbox"/> やや非効率 <input type="checkbox"/> かなり非効率	現在、維持管理業務の一部を民間に委託しているが、今後もコスト削減のため、委託化を推進する。	今後、業務内容を検討し、将来的には全面的委託化の方向に持っていくべきと考える。

【事務事業担当部局内優先度】

※部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	<input type="checkbox"/> 拡大・重点化する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの上で継続する <input type="checkbox"/> 統合する(検討含む) <input type="checkbox"/> 縮小する(検討含む) <input type="checkbox"/> 廃止・休止する(検討含む) <input type="checkbox"/> 終了	今後、退職等による職員の補充はしないで、指揮、監督のための最小限の職員を残し、委託人員の増を図る。 また、現在の維持管理による委託方式の業務内容を再検討し、効率性、経済性を考慮した上で見直しを行い、将来の維持管理業務のありかたを明確化したい。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	<input type="checkbox"/> 拡大・重点化する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの上で継続する <input type="checkbox"/> 統合する(検討含む) <input type="checkbox"/> 縮小する(検討含む) <input type="checkbox"/> 廃止・休止する(検討含む) <input type="checkbox"/> 終了	1次評価のとおり